

はじめに

本テキストは、ヘンデルのオラトリオ『メサイア』の歌詞を、聖書原典に基づき理解するための参考資料として編纂いたしました。（曲番号は Novello 楽譜に準拠しています）

当テキストの日本語訳は、聖書の英語表記から AI 翻訳を参考に作成しましたが、『メサイア』の訳詞には、演奏会や楽団さらには教会ごとに多様な解釈と表現が存在します。したがって、本テキストの訳は、あくまで一つの解釈例であり、参考テキストとしてご参照いただくよう、お願い申し上げます。

主要なメッセージにおいて大きな差異はないと考えますが、このテキストをきっかけに、皆様が解釈の違いを比較検討される事は、非常に興味深い学びとなるはずで、ぜひこれを機に、『メサイア』が持つ奥深い宗教的・芸術的な世界を、より深く探求される一助となれば幸いです。

(シングイン・メサイア・ナゴヤ実行委員会)

第1部 < 預言と待望 >

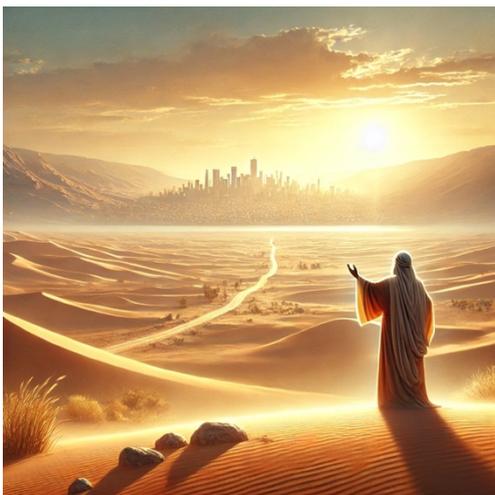
第1番: 序曲(シンフォニア)

『メサイア』始まりのシンフォニア(序曲)は、オラトリオ全体の導入として重要な役割を果たしていると考えられます。

通常、オラトリオの序曲は物語の厳粛さや高揚感を表現するために用いられますが、『メサイア』の序曲は特に荘厳で落ち着いた雰囲気を持っています。これから語られる救い主の誕生に向けた神聖な導入部分であり音楽的には、重い静けさと軽やかさを感じさせるオーケストラの音色が、これからの救いの物語に対する畏敬の念を強調しているように感じます。



第2番: Recitative "Comfort ye, comfort ye my people"



- 歌詞 (英語) :

"Comfort ye, comfort ye my people, saith your God. Speak ye comfortably to Jerusalem, and cry unto her, That her warfare is accomplished, that her iniquity is pardoned."

The voice of him that crieth in the wilderness, "Prepare ye the way of the Lord, make straight in the desert a highway for our God."

- 日本語対訳:

「慰めよ、慰めよ、わが民を、とあなたがたの神は言われる。
エルサレムに優しく語りかけ、彼女に呼びかけよ。
その苦役は終わり、その咎は赦されたのだと。」
荒野で呼ばれる者の声とする。

『主の道を備えよ、荒れ野にわれらの神のための大路をまっすぐにせよ』

このレチタティーヴォ（語りのような歌）は、旧約聖書イザヤ書 40 章 1-3 節に基づいています。神がイスラエルの民に対して語る慰めの言葉で、メシア（救世主）の到来を予感させる内容です。

第3番: Air "Every valley shall be exalted"

- 歌詞 (英語) :

"Every valley shall be exalted, and every mountain and hill made low,
The crooked straight, and the rough places plain."

- 日本語対訳:

「すべての谷は高められ、すべての山と丘は低くされる。
曲がった道はまっすぐにされ、荒れた場所は平らにされる。」

このアリアはイザヤ書 40 章 4 節に基づいています。メシアの到来に備えて、あらゆる障害が取り除かれることを象徴しています。高い山や低い谷が平らにされ、曲がった道がまっすぐに整えられる様子は、救い主の到来に向けて人々の心が準備されることを示唆しています。

第4番: Chorus "And the glory of the Lord"



- 歌詞 (英語) :

"And the glory of the Lord shall be revealed, and all flesh shall see it together,
For the mouth of the Lord hath spoken it."

- 日本語対訳:

「そして主の栄光が現れ、すべての人がそれを共に見るであろう。
主の口がそれを告げたからである。」

この合唱は、イザヤ書 40 章 5 節に基づいています。メシアの到来によって神の栄光がすべての人々に明らかにされるという預言が歌われています。すべての人々が神の救いの業を見るといふ普遍的なメッセージが強調されています。

第5番: Recitative "Thus saith the Lord"

- 歌詞 (英語) :

"Thus saith the Lord of Hosts: Yet once a little while, and I will shake the heavens and the earth, the sea and the dry land; And I will shake all nations, and the desire of all nations shall come."
The Lord, whom ye seek, shall suddenly come to His temple, even the messenger of the covenant, whom you delight in: behold, He shall come, saith the Lord of hosts.

- 日本語対訳:

「万軍の主はこう言われる。『なお、しばらくの後、わたしは天と地、海と陸とを揺り動かす。わたしはすべての国々を揺り動かし、万国の望みなる方が来られる。』
あなたがたの求めている主は、たちまちその神殿に来られる。すなわち、あなたがたの喜びとする契約の使者である。見よ、その方は来られる、と万軍の主は言われる。」

このレチタティーヴォは、ハガイ書 2 章 6-7 節とマラキ書 3 章 1 節に基づいています。神が全世界を揺るがし、すべての国々が待ち望むメシア（救世主）が到来することが予言されています。世界全体がこの到来を期待し、準備している様子を表現しています。

第 6 番: Air "But who may abide the day of His coming"



- 歌詞 (英語) :

"But who may abide the day of His coming? And who shall stand when He appeareth?"

For He is like a refiner's fire."

- 日本語対訳:

「しかし、誰がその来たる日を耐え忍ぶことができるだろうか？彼が現れるとき、誰が立っていられるだろうか？彼は精錬者の火のようだからである。」

このアリアは、マラキ書 3 章 2 節に基づいています。メシアの到来の際、その力強さと神聖さに対して、人々は誰も立ってられないと歌われています。メシアは「精錬者の火」のように、すべてを浄化し、清める力を持っていることを象徴しています。

第 7 番: Chorus "And He shall purify"



- 歌詞 (英語) :

"And He shall purify the sons of Levi,
That they may offer unto the Lord an offering in righteousness."

- 日本語対訳:

「彼はレビの子孫を清めるだろう。
彼らが主に義の中で捧げ物を捧げることができるように。」

この合唱は、マラキ書 3 章 3 節に基づいています。メシアがレビの子孫（祭司職）を清め、彼らが正しい心で神に奉仕できるようにするという意味です。レビの子孫は神に仕える者たちを指し、メシアが来ることで人々がより純粋な心で神に仕えるようになることを象徴しています。

第 8 番: Recitative "Behold, a virgin shall conceive"



- 歌詞 (英語) :

"Behold, a virgin shall conceive, and bear a Son,
And shall call His name Emmanuel", "God with us."

- 日本語対訳:

「見よ、乙女が身ごもり、息子を産む。
彼の名はインマヌエル「神が我らと共におられる」と呼ばれる。」

このレチタティーヴォは、イザヤ書 7 章 14 節に基づいており、メシアが乙女から生まれるという預言です。「インマヌエル」という名前は「神が我らと共にいる」という意味で、メシアの誕生が神の臨在を象徴することを表しています。この曲はキリストの誕生に向けた重要な予告です。

第9番: Air and Chorus "O thou that tellest good tidings to Zion"

ソロ (Air)

- 歌詞 (英語) :

"O thou that tellest good tidings to Zion, get thee up into the high mountain;
Lift up thy voice with strength; lift it up, be not afraid;
Say unto the cities of Judah, Behold your God!"

- 日本語対訳:

「シオンに良い知らせを告げる者よ、高い山に登れ。声を力強く上げよ、恐れずに声を上げよ。
ユダの町々に言え、『見よ、あなたたちの神が来る！』」

合唱 (Chorus)

- 歌詞 (英語) :

"O thou that tellest good tidings to Zion, good tidings to Jerusalem.
Arise, say unto the cities of Judah, behold your god!
The glory of the Lord is risen upon thee."

thou:あなた tidings:知らせ arise:立ち上がる behold:見る thee:あなたに



- 日本語対訳:

「シオンに良い知らせを告げる者よ、エルサレムに良い知らせを告げる者よ。立ち上がれ、ユダの町々に告げよ。見よ、あなたがたの神がここにおられる！ 主の栄光があなたの上に現れている。」

この曲は、イザヤ書 40 章 9 節と 60 章 1 節に基づいており、メシアの到来を告げる喜ばしい知らせが歌われています。ソロではシオンに向けてメシアの到来を告げる声が高らかに響き渡り、合唱ではその光と栄光が人々に降り注ぐ様子が表現されています。

補足：この部分は、旧約聖書イザヤ書第 40 章と 60 章に基づいています。内容としては、ユダヤ人の人々に対して、神の栄光が訪れるという希望のメッセージを告げ知らせる役割を強調しています。

- 「シオン」や「エルサレム」は、ユダヤ教やキリスト教で非常に重要な地名であり、神の民の象徴として使われています。ここでは、神の栄光がもたらされる場所としての役割を担っています。
- 「主の栄光」は、神の存在や力が人々に現れることを意味し、信仰において非常に重要なテーマです。

歌う際には、神の到来による喜びや希望を伝えるものだと捉えると感情を込めやすいかもしれません。

第 10 番: Air "For behold, darkness shall cover the earth"



- 歌詞 (英語) :

"For behold, darkness shall cover the earth, and gross darkness the people; But the Lord shall arise upon thee, and His glory shall be seen upon thee." "And the Gentile shall come to thy light, and kings to the brightness of thy rising."

- 日本語対訳:

「見よ、闇が地を覆い、深い闇が諸々の民を包む。しかし、主はあなたの上に昇り、その栄光があなたの上に現れる。異邦の民はあなたの光に集い、王たちは、あなたの昇り来る輝きに引き寄せられて来る。」

このアリアは、**イザヤ書 60 章 2-3 節**に基づいています。世界が闇に包まれる時、神の光と栄光が人々に照らされるという予言が歌われています。この闇は人類の罪や困難を象徴しており、その中であってメシアの到来が希望の光をもたらすことを示しています。

第 11 番: Air "The people that walked in darkness"

- 歌詞 (英語) :

"The people that walked in darkness have seen a great light,
And they that dwell in the land of the shadow of death, upon them hath the light shined."

- 日本語対訳:

「闇の中を歩んでいた民は大いなる光を見た。死の影の地に住む者たちに光が輝いた。」

このアリアは**イザヤ書 9 章 2 節**に基づいています。メシアの到来によって、闇の中にいた人々が光を見出し、希望と救いを得ることが歌われています。これは、キリストが罪と死の世界に光をもたらすという象徴的な表現です。

第 12 番: Chorus "For unto us a Child is born"

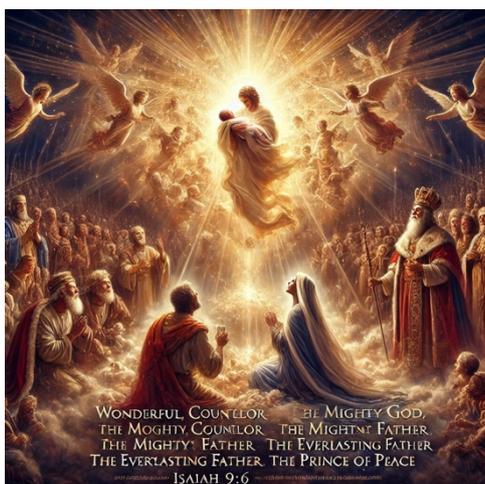
- 歌詞 (英語) :

"For unto us a Child is born, unto us a Son is given,
And the government shall be upon His shoulder,
And His name shall be called Wonderful, Counsellor, the Mighty God,
The Everlasting Father, the Prince of Peace."

- 日本語対訳:

「我々にひとりの子が生まれ、我々にひとりの息子が与えられた。彼は治める者となり、その肩に統治がかかる。彼の名は『驚くべき者、助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれるであろう。」

この合唱は、**イザヤ書 9 章 6 節**に基づいています。メシアとしてのキリストの誕生を祝い、彼が人々を治める存在であること、その名が「驚くべき者、助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれることが強調されています。



第 13 番: PIFA (Pastoral Symphony) 歌詞: なし (器楽曲)

この曲は、歌詞のない器楽曲で「パストラル・シンフォニー」とも呼ばれます。羊飼いの穏やかな田園風景を描写しており、キリストの誕生の場面に向けた静かな前奏となっています。音楽によって、天使が羊飼いに現れる前の静けさと平和が表現されています。

次の曲から、イエス・キリストの誕生（新約聖書から）に関する場面が描かれます。



第 14a 番: Recitative "There were shepherds abiding in the field"

- 歌詞 (英語):
"There were shepherds abiding in the field, keeping watch over their flocks by night."
- 日本語対訳:
「その地方で羊飼いたちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。」

このレチタティーヴォはルカによる福音書 2 章 8 節に基づいています。イエス・キリストの誕生を知らせるために、最初に天使が現れる前の情景が描かれています。羊飼いたちは夜、野外で羊の群れを見守っている場面です。この後、天使たちが登場して、キリストの誕生を告知させます。

第 14 b 番: Recitative "And lo, the angel of the Lord came upon them"



- 歌詞 (英語):
"And lo, the angel of the Lord came upon them, and the glory of the Lord shone round about them, and they were sore afraid."
- 日本語対訳:
「すると、主の天使が彼らの前に現れ、主の栄光が周りを照らし、彼らは非常に恐れた。」
このレチタティーヴォは、ルカによる福音書 2 章 9 節に基づいています。羊飼いたちが夜、野営しているところに突然天使が現れ、神の栄光が彼らの周囲に輝き渡る様子が描かれています。この天使の登場が、キリストの誕生を知らせる重要な出来事を導くシーンとなります。

第 15 番: Recitative "And the angel said unto them"

- 歌詞 (英語):
"And the angel said unto them, Fear not; for behold, I bring you good tidings of great joy, which shall be to all people.
For unto you is born this day in the city of David a Saviour, which is Christ the Lord."

- **日本語対訳:**

「天使は彼らに言った、『恐れるな。見よ、私はすべての民に与えられる大きな喜びを告げ知らせる。今日、ダビデの町であなたたちのために救い主が生まれた。この方こそ主キリストである。』」

このレチタティーヴォは、ルカによる福音書 2 章 10-11 節に基づいています。天使が羊飼いたちに向かって、イエス・キリストの誕生という喜びの知らせを伝える場面です。ここでキリストが「救い主」であり「主」であることが明確に告げられます。

第 16 番: Recitative "And suddenly there was with the angel"



- **歌詞 (英語) :**

"And suddenly there was with the angel a multitude of the heavenly host praising God, and saying:

- **日本語対訳:**

「突然、その天使と共に天の大群が現れ、神を賛美して言った、

このレチタティーヴォはルカによる福音書 2 章 13 節に基づいています。天使がキリストの誕生を告げた後、天使の大軍が現れて神を賛美し、平和と善意が地上にもたらされることを歌います。

第 17 番: Chorus "Glory to God"

- **歌詞 (英語) :**

"Glory to God in the highest, and peace on earth, good will towards men."

- **日本語対訳:**

「いと高きところには神に栄光があり、地には平和があり、人々に善意があるように。」

この合唱は、ルカによる福音書 2 章 14 節に基づいています。天使の大群が羊飼いたちにイエス・キリストの誕生を告げ知らせた後、神に栄光を捧げ、地上には平和が訪れることを宣言しています。歌詞には、神の栄光と人々への祝福、そして平和への強い願いが込められています。

また、オーケストラの最後のフレーズ(バイオリン)は天使が天高く、だんだんと小さくなって最後に見えなくなってしまう様子が、まるで目に見える様です

第 18 番: Air "Rejoice greatly, O daughter of Zion"

- **歌詞 (英語) :**

"Rejoice greatly, O daughter of Zion, shout, O daughter of Jerusalem!

Behold, thy King cometh unto thee; He is the righteous Saviour, and He shall speak peace unto the heathen."

- **日本語対訳:**

「シオンの娘よ、大いに喜び、エルサレムの娘よ、声を上げよ！

見よ、あなたの王があなたのもとに来る。彼は正しい救い主であり、異邦人に平和を告げる。」

このアリアは、**ゼカリヤ書 9 章 9 節-10 節**に基づいています。メシアの到来によって、シオンの民（イスラエルの民）が大いに喜び、平和と救いがすべての人々にもたらされることが歌われています。

第 19 番: Recitative "Then shall the eyes of the blind be opened"



- **歌詞（英語）:**

"Then shall the eyes of the blind be opened, and the ears of the deaf unstopped.

Then shall the lame man leap as a hart, and the tongue of the dumb shall sing."

- **日本語対訳:**

「その時、盲人の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開かれる。足の不自由な者は鹿のように跳ね、口のきけない者の舌は歌う。」

このレチタティーヴォは、**イザヤ書 35 章 5-6 節**に基づいています。メシアが来ることで、奇跡が起こり、盲人、聾者、足の不自由な人、そして口のきけない人が癒され、喜びを得ることを象徴しています。これは、メシアによってもたらされる救いと癒しの力を表現しています。

第 20 番: Air "He shall feed His flock like a shepherd"



- **歌詞（英語）:**

"He shall feed His flock like a shepherd, and He shall gather the lambs with His arm, And carry them in His bosom, and gently lead those that are with young."

Come unto Him, all ye that labor, come unto Him ye that are heavy laden, and He will give you rest. Take His yoke upon you, and learn of Him, for He is meek and lowly of heart, and ye shall find rest unto your souls.

- **日本語対訳:**

「彼は羊飼いのようにその群れを養い、その腕で子羊を集め、それを懐に抱き、子を持つ者を優しく導く。」

「疲れた者、重荷を負う者、彼のもとに来なさい。

彼は安らぎを与える。彼の軛を負い、彼に学びなさい。

彼は柔和で謙遜な者だから。

そうすれば、あなたがたは魂に安らぎを得られる。」

このアリアは**イザヤ書 40 章 11 節**、**マタイ福音書 11 章 28 - 29 節**に基づいており、メシアが羊飼いのように優しく人々を導き、守る姿を描いています。メシアは弱い者や迷える者を抱き、すべての人々

を愛情深く導いていくことが歌われています。また、メサイアの中では Lamb（子羊）がよく出てきますが、Lamb（頭の大文字に注意）はキリストのことを意味しますが、ここでの lambs は挿絵のように、単に子羊を表しています。

第 21 番の合唱曲「His yoke is easy, and His burden is light」

- 歌詞（英語）：
" His yoke is easy, and His burden is light "
- 日本語対訳：
「彼のくびきは負いやすく、その荷は軽い。」

この歌詞は、新約聖書マタイによる福音書 11 章 30 節に基づいています。

ここで「くびき (yoke)」とは、従うべき道や、イエス・キリストの教えを指しています。「荷 (burden)」は、人生における困難や重荷を指していますが、イエスと共にあるとそれは軽く、耐えられるものであるという意味です。歌詞全体を通じて、神の導きに従うことで得られる安らぎと安心感が表現されています。

 memo

第 2 部 < 受難・復活 >

第 22 番: Chorus "Behold the Lamb of God"

- 歌詞 (英語) :
"Behold the Lamb of God, that taketh away the sin of the world."
- 日本語対訳:
「見よ、世の罪を取り除く神の子羊を。」

この合唱は、ヨハネによる福音書 1 章 29 節に基づいています。ヨハネがイエス・キリストを「神の子羊」として紹介し、彼が世の罪を取り除くために来られたことを強調しています。ここでの「子羊」は、キリストが人々の罪を贖うために犠牲になることを象徴しています。次の曲に続くメシアの受難が描かれる第二部の始まりを、厳粛なトーンで告げる曲です。

第 23 番: Air "He was despised"

- 歌詞 (英語) :
"He was despised and rejected of men, A man of sorrows, and acquainted with grief."
"He gave His back to the smiters, and His cheeks to them that plucked off the hair: He hid not His face from shame and spitting."
- 日本語対訳:
「彼は人々に軽んじられ、拒まれた。悲しみの人であり、苦しみを知る者であった。」
「彼は背を打たれるにまかせ、頬の髭をむしられ、恥辱と嘲りから顔をそむけなかった。」

このアリアは、イザヤ書 53 章 3 節, 50 章 6 節に基づいています。イエス・キリストが人々に拒まれ、侮辱され、苦しみを体験する「悲しみの人」であることが歌われています。この曲は、キリストがその受難を通じて人々の罪を贖うための犠牲となることを強調しています。

第 24 番: Chorus "Surely He hath borne our griefs"

- 歌詞 (英語) :
"Surely He hath borne our griefs and carried our sorrows;
He was wounded for our transgressions, He was bruised for our iniquities,
The chastisement of our peace was upon Him."
- 日本語対訳:
「まことに、彼は私たちの苦しみを背負い、私たちの悲しみを担った。
彼は私たちの背きのために傷つけられ、私たちの罪のために打たれた。
私たちの平和のための罰が彼の上にあった。」

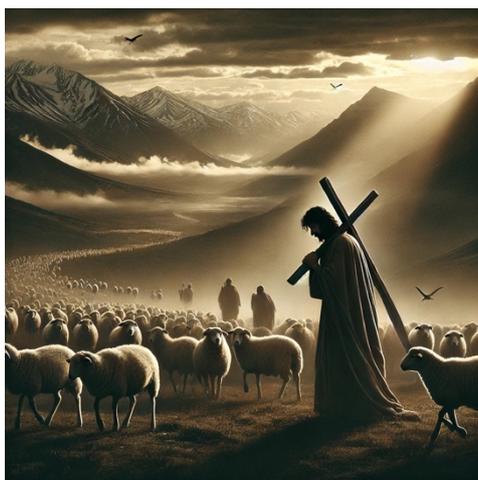
この合唱は、イザヤ書 53 章 4-5 節に基づいています。キリストが人々の罪と苦しみを背負い、彼の犠牲によって人々に平和がもたらされることを歌っています。キリストの受難と贖いの意味が深く表現されています。

第 25 番: Chorus "And with His stripes we are healed"

- 歌詞 (英語) :
"And with His stripes we are healed."
- 日本語対訳:
「彼の打たれた傷によって、私たちは癒された。」

この合唱は、イザヤ書 53 章 5 節の一部に基づいています。キリストが受けた鞭打ちや苦しみが、人々の罪を清め、癒しをもたらすことを象徴しています。これは、キリストの受難による人類の救いを強調した力強いメッセージです。

第 26 番: Chorus "All we like sheep have gone astray"



- 歌詞 (英語) :
"All we like sheep have gone astray; we have turned every one to his own way.
And the Lord hath laid on Him the iniquity of us all."
- 日本語対訳:
「私たちは皆、羊のように迷い出て、それぞれ自分の道に進んだ。しかし、主は私たちすべての罪を彼の上に置いた。」

この合唱は、イザヤ書 53 章 6 節に基づいています。人々が神から離れて自分勝手な道を歩んできたことが歌われ、その罪がイエス・キリストに背負われたことが強調されています。歌の冒頭は軽快ですが、最終的には神の救いの計画が中心となる厳粛なトーンに変わります。

第 27 番: Recitative "All they that see Him laugh Him to scorn"

- 歌詞 (英語) :
"All they that see Him laugh Him to scorn; They shoot out their lips, and shake their heads, saying:
- 日本語対訳:
「彼を見る者はみな、彼をあざけり笑う。彼らは口をすぼめ、頭を振って言う、

このレチタティーヴォは、詩篇 22 篇 7 節に基づいています。キリストの受難の場面で、人々が彼を嘲り、神に信頼する彼をあざける様子が描かれています。イエスが十字架上で侮辱を受けたシーンを反映しており、彼が耐えた苦しみを表現しています。

第 28 番: Chorus "He trusted in God"

- 歌詞 (英語) :
"He trusted in God that He would deliver Him;
Let Him deliver Him, if He delight in Him."
- 日本語対訳:
「彼は神に信頼していた。神が彼を救うだろう。
もし神が彼を喜ぶなら、彼を救ってみよ。」

この合唱は、**詩篇 22 篇 8 節**に基づいています。群衆がキリストを嘲り、彼が神に信頼していることをあざける場面が描かれています。キリストが十字架にかけられた際に、群衆が彼を侮蔑し、神に救われるかどうかを試すような言葉を投げかけた様子が強調されています。この場面では、キリストが耐えた侮辱が浮き彫りにされています。

第 29 番: Recitative "Thy rebuke hath broken His heart"

- 歌詞 (英語) :
"Thy rebuke hath broken His heart;
He is full of heaviness:
He looked for some to have pity on Him, but there was no man;
Neither found He any to comfort Him."
- 日本語対訳:
「あなたの叱責が彼の心を砕いた。
彼は重い心に満たされ、
誰かが彼を哀れむことを待ったが、誰もいなかった。
彼を慰める者も見つけられなかった。」

このレチタティーヴォは、**詩篇 69 篇 21 節**に基づいています。ここでは、キリストの深い悲しみと孤独が描かれています。彼が人々から見放され、慰める者もなく、孤独の中でその苦しみに耐えている様子が表現されています。

第 30 番: Air "Behold, and see if there be any sorrow"

- 歌詞 (英語) :
"Behold, and see if there be any sorrow like unto His sorrow."
- 日本語対訳:
「見よ、彼の悲しみに比べられる悲しみがあるだろうか。」

このアリアは、**哀歌 1 章 12 節**に基づいています。キリストが受けた深い苦しみと悲しみが描かれ、これに匹敵するものがないことが強調されています。イエスが人類の罪を背負って味わった苦痛の大きさが表現されています。

第 31 番: Recitative "He was cut off out of the land of the living"

- 歌詞 (英語) :
"He was cut off out of the land of the living:
For the transgression of Thy people was He stricken."
- 日本語対訳:
「彼は生ける者の地から断たれた。
彼はあなたの民の背きのために打たれた。」

このレチタティーヴォは、**イザヤ書 53 章 8 節**に基づいています。イエス・キリストが罪なき者でありながら、民の背きのために苦しみ、死に至ったことが歌われています。彼が十字架にかけられ、命を断たれることで、人々の罪を贖う役割を果たしたことが強調されています。

第 32 番: Air "But Thou didst not leave His soul in hell"

- 歌詞 (英語) :
"But Thou didst not leave His soul in hell, nor didst Thou suffer Thy Holy One to see corruption."
- 日本語対訳:
「しかし、あなたは彼の魂を地獄に残さず、あなたの聖なる者に腐敗を見ることを許されなかった。」

このアリアは、詩篇 16 篇 10 節に基づいています。イエス・キリストが死から復活し、永遠に神のもとに帰ることが予言されています。彼の魂は永遠に地獄に置かれず、神によって栄光へと導かれるという、復活の希望を表す内容です。

第 33 番: Chorus "Lift up your heads, O ye gates"



- 歌詞 (英語) :
"Lift up your heads, O ye gates, and be ye lift up, ye everlasting doors,
And the King of Glory shall come in. Who is this King of Glory?
The Lord strong and mighty, the Lord mighty in battle.
Lift up your heads, O ye gates, and be ye lift up, ye everlasting doors,
And the King of Glory shall come in. Who is this King of Glory?
The Lord of Hosts, He is the King of Glory."
- 日本語対訳:
「門よ、頭を上げよ、永遠の扉よ、持ち上がれ。栄光の王が入って来られる。この栄光の王とは誰か？」

力強く、戦いにおいて力ある主である。門よ、頭を上げよ、永遠の扉よ、持ち上がれ。栄光の王が入って来られる。この栄光の王とは誰か？万軍の主、彼こそ栄光の王である。」

この合唱は、詩篇 24 篇 7-10 節に基づいています。復活したイエス・キリストが栄光の王として天に昇り、神の右に座すことを象徴しています。この歌詞は、キリストが神の王国に迎え入れられる様子を壮大な音楽で表現し、彼の勝利と栄光が強調されています。

第 34 番: Recitative "Unto which of the angels said He at any time"

- 歌詞 (英語) :
"Unto which of the angels said He at any time,
Thou art My Son, this day have I begotten Thee?"
- 日本語対訳:
「神がかつてどの天使に対しても言ったことがあるだろうか、
『あなたはわたしの子だ。今日、わたしはあなたを生んだ。』」

このレチタティーヴォは、ヘブライ書 1 章 5 節に基づいています。神がイエス・キリストを唯一の子として特別に認め、天使とは異なる存在として扱っていることが強調されています。キリストの神聖さと、その唯一無二の地位がここで示されています。

第 35 番: Chorus "Let all the angels of God worship Him"



- 歌詞 (英語) :

"Let all the angels of God worship Him."

- 日本語対訳:

「すべての神の天使たちよ、彼を礼拝せよ。」

この合唱は、ヘブライ書 1 章 6 節に基づいています。ここでは、神の命令により、すべての天使がイエス・キリストを礼拝することが歌われています。キリストが神の御子として天の存在よりも高位にあり、天使たちも彼に従い崇拝することが強調されています。

第 36 番: Air "Thou art gone up on high"

- 歌詞 (英語) :

"Thou art gone up on high, Thou hast led captivity captive, And received gifts for men, Yea, even for Thine enemies, that the Lord God might dwell among them."

- 日本語対訳:

「あなたは高く昇り、捕らわれた者たちを捕虜として連れて行き、人々のために、そう、あなたの敵のためにも贈り物を受け取った。それは、主なる神が彼らの間に住むためである。」

このアリアは、詩篇 68 篇 18 節に基づいています。ここでは、キリストの昇天が描かれ、彼が勝利の王として捕虜を連れ帰り、神のために贈り物を受け取ったことが歌われています。キリストの昇天とそれに伴う神の栄光、そして彼がもたらす救いが強調されています。

第 37 番: Chorus "The Lord gave the word"

- 歌詞 (英語) :

"The Lord gave the word; great was the company of the preachers."

- 日本語対訳:

「主は言葉を与えられた。宣教する者たちの群れは大きかった。」

この合唱は、詩篇 68 篇 11 節に基づいています。神が人々に救いのメッセージを与え、それを宣べ伝える多くの人々がいたことが歌われています。ここでは、神の言葉が広まり、福音を伝える者たちが多くの人々にそのメッセージを届ける様子が描かれています。

第 38 番: Air "How beautiful are the feet"

- 歌詞 (英語) :

"How beautiful are the feet of them that preach the gospel of peace, And bring glad tidings of good things."

- 日本語対訳:

「平和の福音を宣べ伝え、良い知らせをもたらす者たちの足はなんと美しいことか。」

このアリアは、イザヤ書 52 章 7 節およびローマの信徒への手紙 10 章 15 節に基づいています。ここでは、キリストの福音を広める人々がどれほど尊く、美しい存在であるかが歌われています。平和と喜びをもたらす福音の宣教者たちが称賛されています。

第 39 番: Chorus "Their sound is gone out"



- 歌詞 (英語) :

"Their sound is gone out into all lands,
And their words unto the ends of the world."

- 日本語対訳:

「彼らの声はすべての地に響き渡り、
彼らの言葉は世界の果てにまで届く。」

この合唱は、詩 19- 4 節、ローマの信徒への手紙 10 章 18 節に基づいています。ここでは、福音のメッセージが全世界に広がり、すべての人々に伝わる様子が描かれています。宣教者たちの声が地の果てまで届き、神の言葉が全人類に広まるという普遍的なメッセージが強調されています。

第 40 番: Air "Why do the nations so furiously rage together"

- 歌詞 (英語) :

"Why do the nations so furiously rage together, And why do the people imagine a vain thing?"

The kings of the earth rise up, and the rulers take counsel together against the Lord, and against His anointed.

- 日本語対訳:

「なぜ国々は騒ぎ立ち、なぜ人々はむなしい企てを巡らすのか。地の王たちは立ち上がり、
支配者たちは共に謀り、主と、その油注がれた者（メシア）に逆らう。」

このアリアは、詩篇 2 篇 1- 2 節に基づいています。ここでは、諸国民が神に対して反抗し、無意味な反逆を企てる様子が歌われています。この詩篇は、神に対する人間の虚しい反乱と、最終的には神の計画が勝利することを予告しています。

第 41 番: Chorus "Let us break their bonds asunder"



- 歌詞 (英語) :

"Let us break their bonds asunder,
And cast away their yokes from us."

- 日本語対訳:

「彼らの束縛を断ち切り、
彼らのくびきを私たちから取り去ろう。」

この合唱は、**詩篇 2 篇 3 節**に基づいています。ここでは、神に反抗する者たちが、自分たちを束縛する神の支配から逃れようとする様子が描かれています。

人間が自由を求めて反乱を起こすものの、その試みは虚しいものであることが背景に示唆されています。

この曲は、力強いリズムと急速なテンポが、反抗する人々の激しい感情を音楽的に表現しています。

第 42 番: Recitative "He that dwelleth in heaven"

- 歌詞 (英語) :

"He that dwelleth in heaven shall laugh them to scorn; The Lord shall have them in derision."

- 日本語対訳:

「天に住む者は彼らをあざ笑い、主は彼らを軽蔑される。」

このレチタティーヴォは、**詩篇 2 篇 4 節**に基づいています。ここでは、神が天から人間の反抗を見下ろし、それをあざ笑い、嘲る様子が描かれています。人間の虚しい反乱に対して、神の全能さと揺るぎない力が暗示されています。

第 43 番: Air "Thou shalt break them"

- 歌詞 (英語) :

"Thou shalt break them with a rod of iron; Thou shalt dash them in pieces like a potter's vessel."

- 日本語対訳:

「あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、陶工の器のように粉々にされるだろう。」

このアリアは、**詩篇 2 篇 9 節**に基づいています。神が反逆する者たちを鉄の杖で打ち砕き、彼らを完全に支配し、裁きを行う力を持っていることが強調されています。神の絶対的な権威と力が表現されており、キリストが最終的に世界を裁き、支配するというテーマが込められています。

第 44 番: Chorus "Hallelujah"



- 歌詞（英語）：
"Hallelujah! for the Lord God Omnipotent reigneth. The kingdom of this world is become the kingdom of our Lord, and of His Christ; And He shall reign for ever and ever. King of Kings, and He shall reign for ever and ever ,Hallelujah! "
*Omnipotent 全能の reigneth(reign)統治する
- 日本語対訳:
「ハレルヤ！ 全能の主なる神が統治される。の世の王国は我らの主と彼のキリストのものとなり、彼は永遠に統治される。王の王、主の主。ハレルヤ！（主を讃えよ）」

この有名な「ハレルヤ・コーラス」は、黙示録 19 章 6 節、11 章 15 節、および 19 章 16 節に基づいています。神がすべてを支配し、キリストが王として永遠に統治することが力強く宣言されています。勝利と栄光、そして神の永遠の支配が賛美される場面で、『メサイア』の第 2 部のクライマックスを飾ります。

第 3 部 <永遠の命>

第 45 番: Air "I know that my Redeemer liveth"

- 歌詞（英語）：
"I know that my Redeemer liveth, and that He shall stand at the latter day upon the earth:
And though worms destroy this body, yet in my flesh shall I see God."
For now is Christ risen from the dead, the firstfruits of them that sleep.
- 日本語対訳:
「私は知っている、私の贖い主は生きておられることを。彼は最後の日に地に立たれる。たとえ虫がこの体を滅ぼしても、私は自分の肉において神を見るであろう。」
「キリストは死者の中から復活し、眠りについた者たちの初穂となられたから。」

このアリアは、ヨブ記 19 章 25-26 節およびコリントの信徒への手紙一 15 章 20 節に基づいています。ここでは、キリストの復活と贖い主としての役割が強調されています。信仰者の復活と、死後に神を見るという希望が表現され、永遠の命への信頼が歌われています。これは、『メサイア』第 3 部のテーマである、復活と永遠の命の希望を象徴する重要なアリアです。

第 46 番: Chorus "Since by man came death"



- 歌詞 (英語) :

"Since by man came death, by man came also the resurrection of the dead.

For as in Adam all die, even so in Christ shall all be made alive."

- 日本語対訳:

「人によって死がもたらされたように、人によって死者の復活も来た。

アダムにおいてすべての者が死ぬように、キリストにおいてすべての者が生かされる。」

この合唱は、コリントの信徒への手紙一 15 章 21-22 節に基づいています。アダムによって死がこの世にもたらされたが、キリストによって復活と永遠の命が与えられることが歌われています。ここでは、キリストを通じて人々に希望と救いがもたらされるというテーマが力強く表現されています。

第 47 番: Recitative "Behold, I tell you a mystery"

- 歌詞 (英語) :

"Behold, I tell you a mystery: We shall not all sleep, but we shall all be changed, In a moment, in the twinkling of an eye, at the last trumpet."

- 日本語対訳:

「見よ、私はあなたたちに神秘を告げる。私たちは皆、眠るわけではないが、すべて変えられるであろう。一瞬にして、またたく間に、最後のラッパと共に。」

このレチタティーヴォは、コリントの信徒への手紙一 15 章 51-52 節に基づいています。ここでは、終わりの日における人類の復活が描かれ、キリストの再臨の際に人々が死から復活し、栄光の体に変えられるという希望が表現されています。

第 48 番: Air "The trumpet shall sound"



- 歌詞 (英語) :

"The trumpet shall sound, and the dead shall be raised incorruptible, And we shall be changed."

For this corruptible must put on incorruption; and this mortal must put on immortality.

- 日本語対訳:

「ラッパが鳴り響き、死者は朽ちることのない者として甦り、そして私たちは変えられるであろう。」なぜなら、この朽ちるべきものが朽ちな

いものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着るのですから。

このアリアは、**コリントの信徒への手紙一 15章 52, 53節**に基づいています。最後の審判の日にラッパが鳴り響き、死者が不滅の体で復活し、生きている者もまた変えられることが歌われています。これは、キリスト教の復活の信仰と、永遠の命への希望を力強く表現する曲です。

第 49 番: Recitative "Then shall be brought to pass"

- 歌詞 (英語) :

"Then shall be brought to pass the saying that is written: Death is swallowed up in victory."

- 日本語対訳:

「その時、次の言葉が成就するであろう。『死は勝利に飲み込まれた。』」

このレチタティーヴォは、**コリントの信徒への手紙一 15章 54節**に基づいています。ここでは、キリストの復活と再臨によって、死が最終的に打ち破られるという勝利が予言されています。死に対する最終的な勝利がもたらされ、永遠の命が確立されるという希望が表現されています。

第 50 番: Duet "O death, where is thy sting?"

- 歌詞 (英語) :

"O death, where is thy sting? O grave, where is thy victory? The sting of death is sin, and the strength of sin is the law."

- 日本語対訳:

「おお、死よ、お前のとげはどこにあるのか？ おお、墓よ、お前の勝利はどこにあるのか？
死のとげは罪であり、罪の力は律法である。」

この二重唱は、**コリントの信徒への手紙一 15章 55-56節**に基づいています。死と墓に対する勝利を宣言し、キリストによって死が無力となり、復活によって永遠の命が得られることが歌われています。死の恐怖を打ち破るキリストの力と、人々に与えられる救いの確かさが強調されています。

第 51 番: Chorus "But thanks be to God"

- 歌詞 (英語) :

"But thanks be to God, who giveth us the victory through our Lord Jesus Christ."

- 日本語対訳:

「しかし、神に感謝せよ。神は我らの主イエス・キリストを通して、私たちに勝利を与えてくださる。」

この合唱は、**コリントの信徒への手紙一 15章 57節**に基づいています。ここでは、キリストを通して与えられた勝利に対する感謝が歌われています。死に対する勝利、そしてキリストの犠牲と復活によってもたらされる救いに対する感謝の気持ちが強調されています。

第 52 番: Air "If God be for us, who can be against us?"

- 歌詞 (英語) :

"If God be for us, who can be against us?"

Who shall lay anything to the charge of God's elect? It is God that justifieth.

Who is he that condemneth? It is Christ that died, yea rather, that is risen again,

Who is at the right hand of God, who maketh intercession for us."

- **日本語対訳:**

「もし神が私たちの味方ならば、誰が私たちに敵対できようか？

神に選ばれた者に、誰が罪を負わせるだろうか？義とされるのは神である。

誰が罪に定めることができようか？死んだのはキリストであり、

さらに、よみがえられたキリストは神の右に座し、私たちのために執り成してくださる。」

このアリアは、**ローマの信徒への手紙 8章 31-34節**に基づいています。ここでは、神が信仰者の味方であり、キリストが彼らのために執り成していることが強調されています。神の愛とキリストの贖いによって、信仰者は守られ、誰も彼らを罪に定める事はできないというメッセージが歌われています。

第 53 番: Chorus "Worthy is the Lamb"



- **歌詞 (英語) :**

"Worthy is the Lamb that was slain, and hath redeemed us to God by His blood, To receive power, and riches, and wisdom, and strength, and honor, and glory, and blessing." Blessing and honor, glory and power, be unto Him that sitteth upon the throne, and unto the Lamb, for ever and ever. Amen.

- **日本語対訳:**

「屠られた子羊は、その血によって、わたしたちを神のもとへ贖われた。力と富と知恵と勢い、誉れと栄光と祝福とを受けるにふさわしい。祝福と誉れ、栄光と力が、御座に着いておられる方と、子羊とに、世々限りなくあるように。アーメン」

この合唱は、**黙示録 5章 12-14節**に基づいています。ここでは、キリストが「ほふられた子羊」として、彼の犠牲によってすべての人々を贖ったことが歌われています。そして、その功績によって、キリストは栄誉と賛美を受けるにふさわしい存在であることが強調されています。

そして、最後は「**アーメン・コーラス**」で締めくくります。

アーメンとは、ヘブライ語で「その通り」「確かに」という意味です。



 memo